

調査報告

府中市久佐町の地名について —— 榑崎城跡の総合調査概報Ⅰ ——

城郭研究部会

(地名と石造物)

初めに、府中市久佐町には榑崎山城と云う戦国時代の城跡が有り、此城跡を測量したが、此では城跡の麓の城下町形成と云う点で調査をしてみた。

地名に就いて

字名を付図に記入しているので地名の位置についてはそれを見ていた
きたい。地名の意味に就いては次の様に思う。

A、社会地名

八木原とは城の麓に有り、矢木原の意であろう。矢を作る木の原野の
意か、毛利氏に攻められた時の戦い場の意味であろうか。

永登路と永トロは同意であると思う。長登路で、長い登り道であろう
つまり、久佐村落へ行く時の道であろう。此道については④の地点に石
仏が有り、①の地点に湧水らしき所が有り、②の地点で道の古い石垣が
有る。此道には電柱の木が倒れており、現在の道ができるまでは、此道

を使用していた事をうかがう事ができる。

南坊とは南の坊(寺)の意であり、此でいう寺とは安金寺の事であ
ろ。此と同じ様に、南坊の上とは此南坊の山側であり、寺ノ前とはまさ
に安全寺の前である。

石垣とは久佐川(芦田川)の土手の石垣の意であろう。そして此石垣
にある山の為に石垣山と云う地名になる。

古屋とは山の上であるが広い尾根であるので昔から人家があつたとい
う意の古い家という事か。又、土地の古老によれば、久佐八幡の上の
方に城があつたと云われるので、根小屋の意味で小屋(コヤ)であら
うか。

城ノ下とは、城の下という意であろう。現に、榑崎城の西斜面を城ノ
下と云う。但し、此榑崎城の峠を挟んで北西の尾根の西斜面も城ノ下と
いう地名である。此榑崎城は二子城とも呼ばれており、此北西の山の尾
根は広く、畑地と思うが、近代(近世)の石垣が有り、此山には、榑崎
城の出城らしきものがあつたのかも知れない。

B、自然地名

石落とは久佐川が山を削っており、つまり石が落ちるといふ様な崖と云う意であらう。

野崎とは野（原野）の崎（出ている所）という意であらう。

瀬戸とは瀬（浅瀬）等の川の流の速い瀬の戸（入り口）の意であらう。

宮谷とは久佐八幡の有る宮の谷であらう。

中山とは、中の山であらう。しかし、集落の中心とは思えないが、八幡社が有り、此あたりが意外と中心だったのであらうか。

滝ノフタイ、滝とは山が崖状であるので、滝の様な崖の所という所であらう。

ツカ丸、及び梅ヶ丸の丸とは、城郭の一ノ丸の丸ではなくて、山の尾根等が広い時等に丸という言葉が使われる事が有る。

朝山とは城ノ下の地名の所で少しふれたが、榑崎城の北西の山の東側を朝山と呼ぶが、此榑崎城を朝山二子城とも呼ぶ、そして此山が久佐集落から見たら朝日が当たる山と云う意味であらうか。

更に地名の場所のわからないものは、此持にある。

①石はしの本、石かつほ、②石かき、③そね田、④そねはり、⑤のきうち、のきうち、のきうちたふち、⑥かきうち、かきうち井手、かわうち、かきまち、⑦中かいち、西かいち、⑧六反田、⑨七反田、⑩八反田、⑪八反田おち、ためやす、ふるや、ふるや田、⑫新助田、⑬神田、⑭なかれ田、⑮正田、⑯大田、⑰少田、⑱三角田、⑲老町田、⑳なかれ畠、㉑なるはたけ、㉒ひるはたけ、㉓かねうち、まきかつほ、一町かつほ、大前、ミそのうへ、いかのうへ、いかみ、つ

つミそへ、^⑭ごわうてん、^⑮とうでん、^⑯いかのへ、^⑰堂の後、^⑱堂の本、^⑲堂のまへ、^⑳堂の

もと、^㉑くらのまへ、^㉒まへ、^㉓大まへ、^㉔なかまへ、^㉕まこものあと、^㉖まこものなわ

て、^㉗なわて、^㉘としむね、^㉙むねもと、^㉚みつすけ、^㉛西いせう、^㉜うへいせう、

いせう、^㉝みた谷、^㉞宮の下、^㉟宮の下正田、^㊱宮の下四反田、^㊲宮のわき、^㊳宮の

した、^㊴いわやう、^㊵山神の前道はさみ、^㊶山神ノまへ、^㊷薬師堂、^㊸薬師堂ミそ

はた、^㊹ゆすの木本、^㊺ゆすの木下、^㊻田中、^㊼かん入、^㊽かん入くほ田、^㊾かん入

池の尻、^㊿しも西はやし、^㊽西はやし、^㊾しもはやし、^㊿有重、^㊽志けのふ、^㊾しけ

のふ、^㊽おか、^㊾谷、^㊿かも、^㊽なのら、^㊾道のした、^㊿道ノ上、^㊽家ノ上、^㊾家うへ、

わき、^㊽寺の前、^㊾寺ノうへ、^㊿けいわう、^㊽たくち、^㊾ふた八屋敷、^㊿たくみや、

なかのほう、^㊽かり山、^㊾どうへ、^㊿かとかわ、^㊽ひむら、^㊾ゆのよう、^㊿あかはね、

えけ、^㊽ちくはじ、^㊾竹のした、^㊿竹のわき、^㊽のさき、^㊾のさき渡り、^㊿ちくばし、

ちくはし、^㊽くわんおん堂、^㊾かあきくぼ、^㊿かあき、^㊽下なんほう、^㊾南方、^㊿宮

ノ下、^㊽西林、^㊾下林、^㊿中川原、^㊽いしやう、^㊾うねきの地名が有る。

更に此地名の考えてみると次の様になる。

②は石垣の意であらう。①は石垣の端の事であると思う。③は曾根田

であらう。⑤は垣内（かいと）の意であると思ひ、河谷等の谷の小平野

という意もあるが、堀の内、土居と同じ様に、垣で囲まれた屋敷という

事であるかもしれない。④は垣内と同じ様な意でなかるうか、⑥は垣内

の中、⑦は垣内の西という事であらうか ⑧と⑨は現地名の為安、古屋

であらう。⑩は諸毛町の下永野に三角庁と云うものがあり、その付近の

田（現地名の石垣）あたりであらうか、⑪、⑫、⑬は現地名の上大畠、

大畠、下大畠の付近であらうか、⑭と⑮は権現（ごんげん）、権殿（ご

んでん)、東殿(とうでん)の意であり、神社関係の地と思う。⑩⑪⑫
 ⑬は堂(神社の堂)と後、元(中心)、前、元(中心)と思う。⑭⑮⑯
 は真菰で、マコモ等の多年草の生えている所であろうか、(但し、本
 当に此処にマコモが生えるのかどうかも私は知りませんが)なわては
 意で田んぼのあぜ道の意であろうか。⑳㉑㉒㉓㉔㉕の宮は神社の宮であ
 る。(現地名の宮谷と関係が有るのか)㉖㉗は山神様がある事を示して
 いる。㉘㉙は薬師堂が有る事がわかる。㉚㉛㉜㉝㉞㉟のかん入は現地名の貫入
 と思う。但し、ぬきいりと現在では云っている。㊱㊲はその当時の道と思
 われる。㊳は現地名の野崎と思う。㊴は現地名の野崎への渡しであった処と
 思う。

石造物について

石造物と云っても多く有るが、主として、五輪塔、宝篋印塔、石仏の
 分布はA、B、C、D、E、F、G、H、I、J、K、L、M、N、O、P、Q、R、S、T、U、V、W、X、Y、Z、AA、AB、AC、AD、AE、AF、AG、AH、AI、AJ、AK、AL、AM、AN、AO、AP、AQ、AR、AS、AT、AU、AV、AW、AX、AY、AZ、BA、BB、BC、BD、BE、BF、BG、BH、BI、BJ、BK、BL、BM、BN、BO、BP、BQ、BR、BS、BT、BU、BV、BW、BX、BY、BZ、CA、CB、CC、CD、CE、CF、CG、CH、CI、CJ、CK、CL、CM、CN、CO、CP、CQ、CR、CS、CT、CU、CV、CW、CX、CY、CZ、DA、DB、DC、DD、DE、DF、DG、DH、DI、DJ、DK、DL、DM、DN、DO、DP、DQ、DR、DS、DT、DU、DV、DW、DX、DY、DZ、EA、EB、EC、ED、EE、EF、EG、EH、EI、EJ、EK、EL、EM、EN、EO、EP、EQ、ER、ES、ET、EU、EV、EW、EX、EY、EZ、FA、FB、FC、FD、FE、FF、FG、FH、FI、FJ、FK、FL、FM、FN、FO、FP、FQ、FR、FS、FT、FU、FV、FW、FX、FY、FZ、GA、GB、GC、GD、GE、GF、GG、GH、GI、GJ、GK、GL、GM、GN、GO、GP、GQ、GR、GS、GT、GU、GV、GW、GX、GY、GZ、HA、HB、HC、HD、HE、HF、HG、HH、HI、HJ、HK、HL、HM、HN、HO、HP、HQ、HR、HS、HT、HU、HV、HW、HX、HY、HZ、IA、IB、IC、ID、IE、IF、IG、IH、II、IJ、IK、IL、IM、IN、IO、IP、IQ、IR、IS、IT、IU、IV、IW、IX、IY、IZ、JA、JB、JC、JD、JE、JF、JG、JH、JI、JJ、JK、JL、JM、JN、JO、JP、JQ、JR、JS、JT、JU、JV、JW、JX、JY、JZ、KA、KB、KC、KD、KE、KF、KG、KH、KI、KJ、KK、KL、KM、KN、KO、KP、KQ、KR、KS、KT、KU、KV、KW、KX、KY、KZ、LA、LB、LC、LD、LE、LF、LG、LH、LI、LJ、LK、LL、LM、LN、LO、LP、LQ、LR、LS、LT、LU、LV、LW、LX、LY、LZ、MA、MB、MC、MD、ME、MF、MG、MH、MI、MJ、MK、ML、MM、MN、MO、MP、MQ、MR、MS、MT、MU、MV、MW、MX、MY、MZ、NA、NB、NC、ND、NE、NF、NG、NH、NI、NJ、NK、NL、NM、NN、NO、NP、NQ、NR、NS、NT、NU、NV、NW、NX、NY、NZ、OA、OB、OC、OD、OE、OF、OG、OH、OI、OJ、OK、OL、OM、ON、OO、OP、OQ、OR、OS、OT、OU、OV、OW、OX、OY、OZ、PA、PB、PC、PD、PE、PF、PG、PH、PI、PJ、PK、PL、PM、PN、PO、PP、PQ、PR、PS、PT、PU、PV、PW、PX、PY、PZ、QA、QB、QC、QD、QE、QF、QG、QH、QI、QJ、QK、QL、QM、QN、QO、QP、QQ、QR、QS、QT、QU、QV、QW、QX、QY、QZ、RA、RB、RC、RD、RE、RF、RG、RH、RI、RJ、RK、RL、RM、RN、RO、RP、RQ、RR、RS、RT、RU、RV、RW、RX、RY、RZ、SA、SB、SC、SD、SE、SF、SG、SH、SI、SJ、SK、SL、SM、SN、SO、SP、SQ、SR、SS、ST、SU、SV、SW、SX、SY、SZ、TA、TB、TC、TD、TE、TF、TG、TH、TI、TJ、TK、TL、TM、TN、TO、TP、TQ、TR、TS、TT、TU、TV、TW、TX、TY、TZ、UA、UB、UC、UD、UE、UF、UG、UH、UI、UJ、UK、UL、UM、UN、UO、UP、UQ、UR、US、UT、UU、UV、UW、UX、UY、UZ、VA、VB、VC、VD、VE、VF、VG、VH、VI、VJ、VK、VL、VM、VN、VO、VP、VQ、VR、VS、VT、VU、VV、VW、VX、VY、VZ、WA、WB、WC、WD、WE、WF、WG、WH、WI、WJ、WK、WL、WM、WN、WO、WP、WQ、WR、WS、WT、WU、WV、WW、WX、WY、WZ、XA、XB、XC、XD、XE、XF、XG、XH、XI、XJ、XK、XL、XM、XN、XO、XP、XQ、XR、XS、XT、XU、XV、XW、XX、XY、XZ、YA、YB、YC、YD、YE、YF、YG、YH、YI、YJ、YK、YL、YM、YN、YO、YP、YQ、YR、YS、YT、YU、YV、YW、YX、YY、YZ、ZA、ZB、ZC、ZD、ZE、ZF、ZG、ZH、ZI、ZJ、ZK、ZL、ZM、ZN、ZO、ZP、ZQ、ZR、ZS、ZT、ZU、ZV、ZW、ZX、ZY、ZZ

て記してみたい。
 B 安全寺の横
 宝篋印塔が七基有り、宝珠の先端の欠けているものも有るが、ほとん
 ど完形である。

C 人家の前の墓地内

五輪塔残欠が二基有り、墓石として使用されている石仏が八基有る。

D 大山堂の裏

小祠が有り、その横に、五輪塔の残欠が二基有る。

E 久佐小学校前

道を挟み人家の横に五輪塔の残欠が五基有る。

F 消防器庫の裏

諸田川の土手上に、五輪塔の残欠が十四基、石仏が十五基有る。

此で昔、戦いが有り、その首塚と云われている。

G 久佐八幡下

石段下に五輪塔の残欠が、二基と石仏が十基有る。

H ヤマオカ俵の前

広場に五輪塔の完形が二基、残欠が五基、宝篋印塔が二基有る。

I 満願寺(玉泉寺)跡

五輪塔が二十基とその残欠が六基有り、宝篋印塔が三基有る。

J 落合の集落内墓地

墓石として使用されていると思われる石仏が、七基有る。

K 矢木原集落内人家の横

五輪塔が一基と残欠が一基、石仏が一基、稻荷祠が有る。

L 矢木原、山の墓地

五輪塔が一基、残欠が七基有る。

更に石仏に就いて

P に石仏が有り、A に石仏が有り、久佐集落と落合集落の道が出来た
 時に此石仏を造ったのであろう。阿字町の舟割へ行く道が此石仏が出来

た時には有ったと思われる。Q 苧ノ花大師と呼ばれる石仏が有り、此

付近の山がかり山と呼ばれていると思われる。

まとめ（なぜ地名と石仏を調べるか）

地名では、現在地名だけを記しているが、地名の界、つまり字名界が重要で有り、此事に就いては、桑原公徳著の地籍図に色々な利用法が記して有るが、例として図1に見ていただくが城ノ内の内で一地番に分筆（1-1 1-2 3）に分筆されているが更に地形を見てみると、1-2の所が高いと此が天守と考え、1-10 1-9 1-8が幅広い高まりであれば、土塁、堀ノ内の3-1 3-2が池等であればまさに堀であった等と考える事が出来る等、更に土地が田、畑、林等を調べる事で中世村落を復元するうえで重要な調査方法である。

次に石仏では、五輪塔、宝篋印塔等の分布と時代を調べる事によって、江戸時代以前では、有力な豪族が造っている為にその有力な武士が此に居住しているかどうか、等がわかる。しかし、此年代については無記銘塔であるので、記銘塔と比較をして編年しなければならぬ。石仏については、その石仏の造立年代の農民の信仰等がわかる。なお此付近の石造物の編年に就いては、「国立歴史民俗博物館研究報告第9集」「三原市の石造物」等が参考になる。

最後に

現在府中市教委が市史を刊行中で、此文書中にも入れたが貴重な文書が数多く有り、市史刊行後に報告すればもっと良くわかると思うが、調査資料の紛失等がおきた為に刊行前に中間報告をさせていただきます。ですから刊行後には完全な報告をしたいと思っておりますのでよろしくお願

します。

なお調査は昭和61年にしました。参加協力者は、塚本、山下、高橋安子、牧平、高橋、後藤、小寺、田口、佐藤洋一（順不同）でした。御参加ありがとうございました。古い事ですので、他に参加されている人がいましたら御一報いただければ幸いです。

それでは次回まで。

（文責 七森義人）

参考文献

「府中市史」 近世史料編1

〃 〃 〃 〃 〃
地理編

「国立歴史民俗博物館研究報告第9集」

「三原市の石造物」

「田島の地名に就いて」

「地籍図」 桑木公徳



